寅さん歩　その 26

東京の主要道路の起点～終点

川の手通り－1

平野　武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021 年 10 月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元　大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」、「平和橋通り」、「大久保通り」、「蔵前橋通り」、「道灌山通り」と歩いてきました。

2024 年（令和 6 年）の初歩きは「川の手通り」です。川の手通りは平和橋通りを歩いた際に交差して、その存在を知りました。東京都には山手通りがあるので川の手通りがあってもおかしくないですよね。川の手通りは荒川区南千住の明治通りの白鬚橋西詰交差点を起点に、足立区谷中の環七通りの綾瀬警察署前交差点に至る延長約 7ｋｍの道です。写真右上は川の手通りの道路名標識（都道 314 号線）です。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

［白鬚橋西詰交差点］ 荒川区南千住三丁目

最寄駅　ＪＲ常磐線　南千住駅

明治通りの白鬚橋西詰交差点（写真下左）が川の手通りの起点で隅田川沿いに左へ向かいます。

交差点を直進する道が明治通りで、前方の白鬚橋を渡り、橋の真ん中から墨田区に入り、亀戸方面へ向かいます。交差点左が荒川区で川の手通りです。交差点右は台東区で言問橋方面へ向かいます。この交差点で 3 つの区に分かれます。

［隅田川の渡し・白鬚橋］　荒川区南千住三丁目

最寄駅　ＪＲ常磐線　南千住駅

隅田川には「橋場の渡し」・「白鬚の渡し」がありましたが、有志の人々の募金で会社を立ち上げて 1914 年（大正元年）5 月木製の白鬚橋が完成しました。この橋を 1925 年（大正 14 年）東京府が買い上げました。平安時代初期の歌人　在原業平の有名な「言問の都鳥の歌」はこの地で詠まれたと伝わります。

［石浜神社］　荒川区南千住三丁目　　最寄駅　ＪＲ常磐線　南千住駅

すぐ左に「石浜神社」（写真下左右）があります。お参りしてスタートします。

境内の案内板によると「この地付近は石浜城跡で室町時代の中頃、武蔵千葉氏の居城となり、戦乱の世に百年余り続いたが、廃城となったと思われる。石浜神社は聖武天皇の時代、724 年（神亀元年）の創建と伝わる古社で、源頼朝・千葉氏・宇都宮氏らの崇敬を受けたという」と記載。源頼朝の奥州征伐や元寇の際の戦勝祈願でご利益を受けたと関東武士の多くの崇敬を集めたそうだ。
石浜神社は「浅草名所（などころ）七福神」の寿老人です。

［瑞光橋・瑞光橋公園］　荒川区南千住三丁目

最寄駅　ＪＲ常磐線　南千住駅

少し行くと、「瑞光橋」（写真下左）があり、橋の左側は入江で「瑞光橋公園」（2016 年 5 月開園）（写真下右）になっています。橋のたもとの案内板には「当地区は、明治 29 年に日本鉄道株式会社が隅田川駅を開設して以来、隅田川を利用した船運と相俟って、物資の集積地として大変栄えてきました。張り巡らされた運河には、かつて瑞光橋がかかっていました。このたび、再開発事業により新瑞光橋が架橋されたことを記念して、往時をしのび、ここに当時の橋名板を設置いたしました」と記載。

［産業技術高専・白鬚西ポンプ所］荒川区南千住八丁目

最寄駅　ＪＲ常磐線　南千住駅

その先の左側に「産業技術高専」（写真下左）がありました。正式名称は東京都立産業技術高等専門学校で、公式サイトによると「首都東京の産業振興と課題解決に貢献するものづくりのスペシャリストを育成する公立高専として、2006 年（平成 18 年）に都立工業高専と都立航空工業高専が統合・再編されて開校」

とあります。ここは荒川キャンパスで品川東大井に品川キャンパスもあります。隣のロッジ風の建物（写真下右）の表札を見たら、「東京都下水道局白鬚西ポンプ所」と知り驚きました。東京都下水道局所管の北部ポンプ所（8 か所）の一つで下水道保全管理事業を行っているそうです。

［汐入公園・水神大橋］　荒川区南千住八丁目

最寄駅　ＪＲ常磐線　南千住駅

その先の交差点（写真下左）の両側は「汐入公園」になっています。汐入公園は白鬚西地区市街地再開発事業で整備され 2006 年（平成 18 年）4 月開園しました。災害時の広域避難所になっています。写真下右は隅田川沿いの汐入公園エリアで桜並木が続いています。

写真上左の交差点を右に行くと水神大橋（写真下左）でこの橋の真ん中が荒川区と墨田区の区境になります。橋名は東岸にある「隅田川神社（水神宮）」に因みます。**寅さん歩 475　墨堤通り―2 をご覧ください。**

水神大橋は陸上で組み立て橋桁を台船で運んで架橋したそうです。写真上右は水神大橋方面を振り返り、東京スカイツリーを眺めました。

写真上左右は墨堤通りを歩いた際に綾瀬橋から見た光景で、当時見た桜並木（写真上右）は汐入公園の桜並木と判明しました。

［千住汐入大橋］ 荒川区南千住八丁目・足立区千住曙町

最寄駅　ＪＲ常磐線　南千住駅・京成本線　京成関屋駅

写真上左の汐入公園の前が、千住汐入大橋（写真下右）です。橋の真ん中が荒川区と足立区の区境です。写真下左は橋から汐入公園方面を撮影したものです。写真下右は汐入大橋を渡り、足立区に入り、隅田川対岸の荒川区の桜並木の風景です。桜の時期に訪れてみたい場所です。

今回はここまでとします。

［バーチャルウォーク途中経過］

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがＦＷＡホームページ「ＹＲ・四季の道」に掲載されています。　寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん　喜多さんと伊勢参り」で 2021 年（令和 3 年）9 月から歩きました。寅さん歩 379　令和 3 年 10 月から掲載済です。
今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進度のご連絡をお待ちしています。

2023 年 8 月 8 日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023 年 10 月 18 日府中宿（現在の静岡県静岡市葵区）（江戸日本橋から 174ｋｍ）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。

現在の静岡市は、駿河国の国府が置かれたところで、「駿府」あるいは「府中」と呼ばれ、江戸時代以降は宿場の呼称は「府中宿」となりました。
徳川家康が少年期と晩年期を過ごした府中は、また、「東海道中膝栗毛」の著者、十辺舎一九の生誕地でもあり、東海道とは縁の深い土地です。

写真左は「府中　府中の安倍川」です。府中宿の先にあるのが安倍川です。かごに乗った女性、肩車で渡る女性、馬を引く人足の三組の渡河の様子を描いています。

名物はあべかわ餅（写真下左）、うさぎ餅（写真下右）、桶ずしがあります。あべかわ餅は安倍川上流で金がとれたこともあって、「きな粉」を「金な粉」と洒落て徳川家康に献上したところ、そのおいしさに舌鼓を打った家康がみずから「あべかわもち」と名付けられたとされています。寅次郎も４年弱、静岡県富士宮市に住んでいたので大好物でした。うさぎ餅は江戸時代の狂歌の第一人者の大田南畝（蜀山人）が東海道を旅した際に食し、「耳長ふ　聞き伝えきし　兎餅　月もよいから　あがれ名物」と歌に詠み、それにちなんで「うさぎ餅」と名付けられました。一時途絶えましたが、復活した名物とのことです。桶ずしは山海の素材を盛り込んだちらし寿司でこれも大田南畝が食したとのことです。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
ＦＷＡのＨＰ「ＹＲ・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。
今回の東海道五十三次のコースシートは１マス２ｋｍを塗りつぶして進みます。
マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野　寅次郎　拝